

NEWS-1

世界かんがい施設遺産を訪ねる 第2回



志染川 (しじみがわ) の谷に淡山疏水の水を渡すため、1891年に設置。



現在の御坂サイフォン (めがね橋)。

淡山疏水

【兵庫県・神戸市他】

台地に位置していたため、導水が困難で、人々が生活に困窮した地域だった。国内外の技師の発案により、明治から大正時代にかけて、英国製鉄管とサイフォン技術を大規模に採り入れた最新技術で完成。81カ所におよぶため池も活用し、安定した稲作経営が実現した。

山田堰・堀川用水・水車群

【福岡県・朝倉市】

「日本三大暴れ川」の異名を持つ筑後川の水圧と激流に耐えるために、日本唯一の「傾斜堰床式石張堰」という堅牢な構造で築かれた堰。揚水量が不足するため、堀川用水の流水を利用して回転するあさくら三連水車を設置し、確保している。

ライトアップされた現在のあさくら三連水車。



現在の堀川用水。



現在の山田堰の全景。

上が江戸時代、下が奈良時代の木樋。何回か改修した痕跡が。



2012年狭山池上空からの航空写真。

狭山池

【大阪府・大阪狭山市】

1,400年前に作られた日本で最も古い人工的なため池。日本最古の歴史書にも記載されている。築造当時は朝鮮半島の技術が利用され、800年前の改修では中国の技術を応用。狭山池の水利システムの歴史は日本のかんがいシステムの開発・改修の歴史で、近年の改修時には歴史的遺構が多く発見されている。

立梅用水

【三重県・多気町他】

水を利用する条件が悪く、畑作しかできない地域だったが、1,300年前から続く水銀の掘削技術を生かして1823年に水路が完成。水路が30kmと長いので、水路自体に水を貯留でき、水害の危険性を減らしつつ、安定した用水供給が可能になった。



素掘り隧道 (ずいどう) の柳谷 (やなぎたに) のトンネル。



1907年ごろの立梅井堰 (たちばいいせき)。

価値あるかんがい施設を登録

世界かんがい施設遺産とは、かんがいの歴史と発展を明らかにすることで理解を高め、かんがい施設を適切に保全することを目的として、国際かんがい排水委員会 (ICID) が認定するものです。歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設が登録されることで、今後はかんがい施設を核とした地域づくりに活用されることが期待されています。現在登録されているのは日本を含む5カ国25カ所。「世界かんがい施設遺産を訪ねる」第2回は前回に続き、平成26年度に登録された日本の4施設を紹介します。

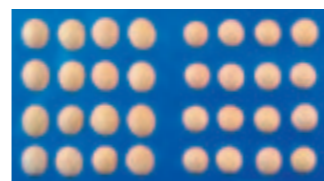
あふラボ

豆乳に好適な品種「きぬさやか」

暮らしに役立つ最新の研究成果を紹介します。



一面に広がる大豆畑。



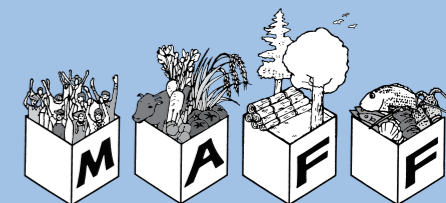
左が「スズユタカ」、右が「きぬさやか」。

あふラボ トリビア

豆乳は新参者?

豆乳は豆腐作りに必要なものなので古くからありますが、日本で広く認知されるようになったのは、1972~73年の豆乳ブームのときから。一般的になったのが比較的新しい飲料です。

撮影/野口雅裕 (豆乳)



TOPICS

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。「MAFF TOPICS」では、農林水産省からの最新ニュースなどを中心に、暮らしに役立つさまざまな情報をお届けいたします。

取材・文/細川潤子



一般的な大豆の花の色は紫だが、「きぬさやか」は白。



「きぬさやか」莢 (さや) の肥大期。

絹のようになめらかで すっきりした味わい

健康志向の高まりとともに、豆乳の消費量は年々増加しています。消費者に求められる豆乳の飲みやすさを追求して、農研機構 (農業・食品産業技術総合研究機構) では、新たな品種「きぬさやか」を開発しました。栄養成分はそのままに、大豆の青臭みやえぐみを除いたこれまでになくタイプの大豆です。「絹のようななめらかさ」と「すっきりして爽やかな味わい」の豆乳ができることから、「きぬさやか」と名づけられました。「豆乳が苦手な方向けに、クセがなく飲みやすいものを」という趣旨で開発されました。もともとと青臭みのない大豆を作ったのは、世界でも日本が初めてです。1996年に青臭みがないリポキシゲナーゼ完全欠失大豆品種「いちひめ」が誕生し、「いちひめ」が交配親となつて「きぬさやか」など

5品種が国内で育成されています (農研機構東北農業研究センター 水田作研究領域大豆育種グループ・菊池彰夫さん) リポキシゲナーゼは、大豆の子実に含まれる酸化酵素のひとつ。大豆を加工する際に、大豆の油に作用して、青臭さを引き起こします。したがってリポキシゲナーゼをなくすと、青臭みの原因を絶つことができるのです。また、大豆のえぐみの原因となるのはサポニンという物質。サポニンは植物に多く含まれる配糖体で、その中で特にアセチルサポニンを取り去ることでえぐみがなくなります。「いちひめ」の流れをくむ「刈系508号」と、アセチルサポニンを欠失させた特性を「スズユタカ」に導入した後代とを交配させてできた「きぬさやか」。古くから大豆に親しみ、繊細な味覚を持つ日本人が作った優れた品種です。

読者の声

読者の皆さまから寄せられた「aff(あふ)」4月号へのご意見・ご感想を紹介します。

若い人たちが農業を学ぶ姿に感動しました。誌面から楽しさが伝わってきて、日本の未来も明るく感じられました。応援していきたいですね。(50代・女性)

これまであまり知る機会がなく、マイナーなイメージを持っていた各大学農学部への一端を知ることができて良かった。(60代以上・男性)

いくつもの大学の地道で熱い取り組みを知り、驚きました。これからも地域の実態に即した研究や開発が進んでいくと思うと、うれしくなります。(60代以上・女性)

現役の大学生です。母校のことは知っていたものの、ほかの大学にもさまざまな魅力があり、農学部の幅広さ、奥深さを感じました。そして同時に、「同じ大学生として負けてられない」と思いました。もっと頑張ります!(20代・男性)

「農学部と私」では、意外な方が農学部出身だと知って、とても楽しく読めました。(50代・女性)

各地の大学でこんなにも多くの製品を開発していることを知り、若い力を頼もしく感じました。大学ブランドのお酒、すべて飲んでみます。(60代以上・女性)

広報誌aff(あふ)の感想をお聞かせください

今後もよりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省のホームページ、広報誌affのサイトから回答できます。



メールマガジンのご案内

大田メッセージや施策の紹介、イベント情報などをお届けする「農林水産省メールマガジン」を毎週月曜日に発行しております。ぜひご登録ください。無料です。
http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/

フェイスブック・ツイッターのご案内

フェイスブック <https://www.facebook.com/maffjapan>
ツイッター https://twitter.com/MAFF_JAPAN

日本初のデュラム小麦新品種「セトデュール」を育成

NEWS-3

農研機構西日本農業研究センターは、日本製粉(株)との共同研究を経て、日本初のデュラム小麦品種「セトデュール」をリリース(開発)しました。デュラム小麦はスパゲッティなどパスタに使用される小麦で、うどんなどに使われる普通小麦に比べて日本での育成には不向きなため、ほとんどが外国産でした。消費者から国産デュラム小麦の要望が多いことから、1998年に温暖で収穫時期の降雨が少ない瀬戸内地域で、デュラム小麦の品種改良を開始しました。

名前の由来は栽培適地である瀬戸内地域「セト」と、ラテン語で硬いという意味を示す「デュール」から。現在は兵庫県の平坦地を中心に栽培されていますが、今後は瀬戸内地域に500ha程度の作付けを目指す予定です。

デュラム小麦品種「セトデュール」のポスター。



兵庫県の契約農場で栽培される「セトデュール」。

NEWS-4

「逆引き事典」をリニューアル

農林水産省では、平成28年1月にホームページ上に公開した「補助金等の逆引き事典」を、利用者からの改善要望を踏まえ、機能を大幅に拡充し利便性を向上させて、リニューアルしました。

具体的には、補助金だけでなく融資、出資、税制、優良事例を検索メニューに追加し、事業概要やお問い合わせ先などを掲載することで、利用者がワンストップで情報を収集できるよう改善しました。



森山裕農林水産大臣は記者会見で、リニューアルについていねいに説明。「逆引き事典」はQRコードからアクセスできる。



グランプリ 内閣総理大臣賞

夢の音村「森の公民館」(サウンドファイブ夢の音会) 島根県浜田市

「森の公民館」は音楽活動団体サウンドファイブ夢の音会により誕生した林間交流拠点。1968年から47年間にわたり音楽による地域づくり活動に取り組み、「音楽」をキーワードに農山村地域が抱えるさまざまな課題に対応している。サウンドファイブは、地元の高校生の仲間による音楽バンドの活動が原点。地域のイベントに出演、著名ミュージシャンを招いてコンサートを企画するなど、その活動は住民から高い評価を得ている。



NEWS-2

第13回オーライ!ニッポン大賞 受賞者決定!

「オーライ!ニッポン」とは、都市と農山漁村の間の人・もの・情報(の往来(おうらい))を盛んにすることで、日本全国が元氣(元気)になることを目指す国民運動「都市と農山漁村の共生・対流」のキャンペーンです。オーライ!ニッポン会議と農林水産省では、国民への新たなライフスタイルの普及定着を図るため、共生・対流に関する優れた取り組みを表彰する「オーライ!ニッポン大賞」を2003年度から実施しています。2015年度は、全国から184件の応募があり、グランプリ1団体のほか、12団体と3人の方々が受賞しました。

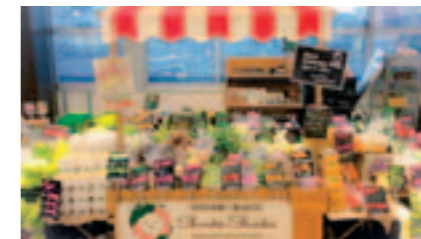


左/住民参画の音楽を通じた文化交流は47年間継続。右/音楽ホール、キャンプ場などの施設「森の公民館」を1995年に整備し、独立採算で運営。

オーライ!ニッポン大賞



仙北市農山村体験推進協議会 秋田県仙北市



株式会社エマリコにたち 東京都国立市



特定非営利活動法人夢未来くんま 静岡県浜松市

オーライ!ニッポン大賞審査委員長賞

八戸市青葉湖展望交流施設 山の楽校運営協議会(青森県 八戸市)

島田建設株式会社(千葉県 成田市)

木滑里山保全プロジェクト(石川県 白山市)

かみかわ田舎暮らし推進協会(兵庫県 神戸市)

株式会社農業公園 信貴山のどか村(奈良県 三郷町)

オーライ!ニッポン フレンドシップ大賞

公益社団法人 sweet treat 311(宮城県 石巻市)

オーライ!ニッポン フレンドシップ賞

庄原市高野地域づくり未来塾(広島県 庄原市)

倉敷まちなか居住「くるま座」有鄰庵(岡山県 倉敷市)

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンター(熊本県 阿蘇市)

オーライ!ニッポン ライフスタイル賞

山野 晃弘(千葉県 木更津市)

馬場 未織(東京都 世田谷区)

伊藤 弘晃(福井県 福井市)